



自分の思いや考えをもち、 豊かに表現できる児童の育成

～書く活動を通して、思考力・表現力を高める学習指導の工夫～

北区 東大成小学校 校長 石田 耕一

1 はじめに

本年度から全面実施された新学習指導要領では、学校の教育活動を展開する中で、児童の言語活動を充実することも示されている。

本校では、平成21・22年度に「国語力向上」の研究推進の委嘱をさいたま市教育委員会から受け、一人ひとりの教員の授業力・指導力を向上させ、学習指導要領が示す言語活動の充実を踏まえた授業づくりを目指した。

2 育てたい児童像

本校は学校教育目標を「ゆたかな子（ゆたかな心を育む）」「たくましい子（健やかな体を育てる）」「かしこい子（確かな学力を培う）」として、さいたま市学校教育ビジョンが示す「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもの育成に努めている。

さいたま市学校教育ビジョン、学校の教育目標、本校児童の現状等から基礎学力のみならず、自分の考えをもち、自分の言葉で正しく表現する力を身に付けること、自ら学び自ら考え判断する力を身に付けることなどが必要と考えた。研究を推進するにあたり、さいたま市国語力向上プログラムも踏まえ、この研究を通して育てたい児童像を「自分の思いや考えをもって、自分の言葉で正しく表現できる子」とした。

3 研究テーマ設定の理由について

育てたい児童像を実現するためには、自分の思いや考えを自分の言葉で適切に表現したり、相手の考えを正確に理解したりすることが重要である。その中でも、書く活動を通して自分の思いや考えを整理し、さらに深めていくことで豊かに表現できるという仮説を立て、学習指導の工夫に取り組むこととし、研究テーマを「自分の思いや考えをもち、豊かに表現できる児童の育成 ―書く活動を通して、思考力・表現力を高める学習指導の工夫―」とした。

に表現できる児童の育成 ―書く活動を通して、思考力・表現力を高める学習指導の工夫―とした。

4 研究テーマに迫る手立て

研究を推進するに当たり、学習指導の工夫を図り、基礎的基本的な事項を確実に押さえるとともに言語環境などを整えるなどの手立てを講じていく必要があると考えた。さらに、日常的な書く活動の充実を図り、研究でねらう書く力を身に付けさせ、思考力・表現力を高めようと考えた。さらには、国語科の授業のみならず、学校における教育活動全体を通して、書く活動を取り入れることにした。

(1) 学習指導の工夫

① 5つの言語意識の明確化

次に示す5つの言語意識を黒板カードを使って明確に示し、授業の中で常に児童に意識させて書く活動をさせ、自分の考えを深め自分の思いを豊かに表現させる。

意識	カードの表現	考え方
相手意識	だれに	誰に対して書くのか
目的意識	何のために	何のために書くのか
場面・状況意識	どんな場で	どういう場面・状況でその書いたものを発信、交流するのか
方法意識	どんな方法で	どういう表現方法で表すのか
評価意識	振り返り	相手に自分の思いや考えがよくわかるように表現されているか

② 学習過程の工夫

「書くこと」の単元の学習では、「課題を設定する」、「取材をする」、「文章を構成する」、「文章を記述する」、「推敲する」、「書いたものについて交流する」という場面を設定する必要がある。さらに、「各教科等の指導にあ

たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにする。」と総則に触れられていることも踏まえ、単元の学習の基本的な流れを次のように捉えた。

《第一次》学習の見通しをもつ

①学習計画立案	学習の見通しをもつ。学習計画を児童と共に立てる。学習のゴールが明確になる。
---------	---------------------------------------

《第二次》本単元でつきたい力をつける

②課題設定	何を書くか決める。誰に、どうして伝えたいのかを考える。
③取 材	書こうとする題材に必要な事柄を集めたり、調べたり、整理したりする。 ○取材方法 ①資料 ②インタビュー ③観察 など
④構 成	事柄の順序、段落相互の関係、効果を踏まえて文章を構成する。 ○構成例 ・はじめ・なか・おわり ・頭括型、尾括型 など
⑤記 述	指導事項を踏まえて文章を書く。表現様式に合わせて記述の仕方を学ぶ。 例 観察文、記録文、報告文、説明文 など
⑥推 敲	文章を読み返す、間違いを正したり書き直したり、表現の効果を確かめて文章をよくする。
⑦交 流	文章のよいところを見つけたり、考えの明確さなどについて意見を述べ合ったり、表現の仕方に着目して助言し合う。 ①交流 (A)・・・よりよくするための情報交換 ②交流 (B)・・・学習の成果を交流する

《第三次》身に付けた力を発揮する・学習を振り返る

⑧学習の振り返り	相手意識・目的意識をもった相手に内容を伝える。相手に伝えることができたか評価する。
----------	---

交流は、よりよくするために情報交換としての交流(A)と学習の成果を共有する交流(B)と区別し、第二次または、第三次へ異なる位置付けをしている。

③ 語彙数の充実

自分の思いや考えを自分の言葉で豊かに表現するためには、語彙が豊富でなければならない。日記の最後がいつも「たのしかったです。」「おもしろかったです。」では、豊かに表現するとはいえない。「感想の言葉カード」を提示し、児童が様々な言葉で自分の思いを表現できるよう語彙の充実を図った。

④ モデル学習の工夫

本単元でつきたい力のモデル文を提示することにより、児童が自分の思いを表現できるようにした。モデル文とは学習のゴールでも

あり、見通しを持って学習に取り組む手立てとなると考え、モデル文の工夫を図った。

⑤ ワークシートの工夫

自分の考えや思いを整理し、深めるため、書いて考える活動は重要である。また、学習の積み重ねを振り返り、自己評価をする上でワークシートの工夫は欠かせない。

学習過程と上記①から⑧の手立ての関係を整理すると次の表のようになる。

次	学習過程	手立て
第一次	学習計画立案	学習計画表の作成
第二次	課題設定	5つの言語意識の明確化 (相手・目的意識)
	取材	
	構成	モデル学習の工夫
	記述	語彙数の充実 ワークシートの工夫 モデル学習の工夫
	交流	5つの言語意識の明確化 (相手・目的意識) ※太字・・・学習過程の重点化
第三次	学習の振り返り	5つの言語意識の明確化 (評価意識)

(2) 日常的な書く活動の充実のための取組

- ①スピーチ原稿…「はじめ・なか・おわり」などの構成を考え、話すためのメモ様式
- ②感想の言葉カード…児童の実態を踏まえ、使えるようにさせたい言葉を集めた一覧表
- ③日記…日常的に書く習慣を身に付けさせるための様式
- ④見つけたよカード…生活科や理科で発見や気づきなど絵や文で表現する様式
- ⑤鑑賞カード…音楽や図工などで自分の感じたことを書いて表現する様式
- ⑥体育学習カード…体育の学習で自分の活動を書いて表現する様式

4 おわりに

国語科をはじめ、教育活動全体に「書く」活動を取り入れたことで、書くことに対する苦手意識が軽減されたことは勿論のこと、自分の考えが整理を通してより深まり、相手に自分の思いをより正しく伝えられるようになった。また、学習指導にあたり新学習指導要領に示された国語科の「書くこと」の学習過程を踏まえた授業の流れについて本校教員の共通理解を図ることができたなどの多くの成果をあげることができた。(平成22年度学校課題研修主任の人事異動に伴い、校長が代わって概要をまとめた。)